

## 編集後記

2011年3月11日からほぼ3年間が経とうとしています。あの東日本大震災からの復興や東京電力福島第1原子力発電所事故の解決は、なかなか前に進んでいないように思えます。時が経つにつれて、当時の想いが薄れていくことを恐れています。

この時期は、毎年雪について思いを巡らします。今冬2月、関東・甲信地方では経験したことのないような大雪に見舞われ、20人を超える方が亡くなりました。雪による羽田空港の機能低下の影響で、新千歳空港では2日間に渡り約2,000人が空港に泊まる事態が発生しました。そんな季節がめぐる山々の積雪も春を待っています。

15回目となるフォーラムで配布する資料集は、毎年継続して寄稿頂いている山域が軸にすわっています。今回も利尻山山岳年報として利尻山のこの1年を知らせて頂きました。日高・幌尻岳の山岳環境問題を山荘トイレ排泄物担ぎ下ろしの御苦勞の様子と共に紹介できました。アポイ岳での携帯トイレ利用推進の活動も紹介します。

大雪山国立公園におけるいろいろな情報も届き、ご苦勞が続く黒岳パイオトイレの運用状況の紹介がありました。大雪山系をはじめとする避難小屋トイレの状態を写真で紹介しています。大雪山の山岳トイレ管理レベルの提言もありました。

札幌市民の憩いの山；空沼岳にある万計山荘の20年に渡る様子の紹介で、多くの皆さんの協力・協働による維持管理の大切さを認識しました。

本州からは、東北の鳥海山で効果を発揮する山岳トイレの紹介があり、富士山頂公衆トイレの維持管理業務の一端の紹介がありました。立山連峰を望む富山市による山小屋トイレの改善支援の考えを知ることができました。山岳トイレ建設を進めている九州福岡の英彦山に関わる皆さんの様子が伝わりました。屋久島の山岳トイレは苦勞をされている様子です。なんとか改善して役割を発揮するようになって欲しいと願っています。

全国のいろいろな地域の皆さんのことや山域での情報を紹介することは、私達の役割となり、活動の励みとなっています。本資料集に寄稿頂きました皆様、お忙しいなか本当にありがとうございました。深く感謝申し上げます。

この15回目の資料集を、例年通り皆様のお手元に届けることが出来る喜びと共に、少しでもお役にたてるようにと願っています。

(小枝 正人)

禁複製